成願寺

季報
106
平成27年8月18日
(2015年)

目次

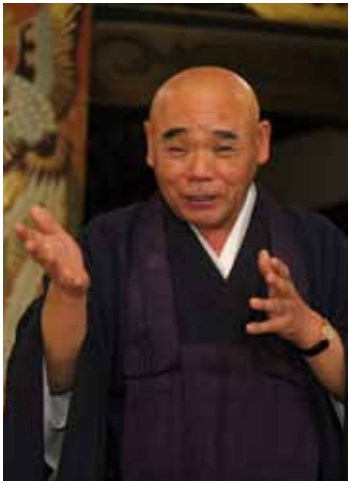
「絶えることのない信仰の力」屋敷智乗……1
坐禅研修会感想文紹介……5
山内短信……8

発行　多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話　03-3372-2711
制作　地人館

平成二十六年 秋の観音詣り説教

絶えることのない信仰の力

石川県永光寺住職　屋敷智乗



石川県永光寺住職
屋敷智乗老師

本日はようこそお詣りくださいました。昨日までは北陸らしいお天気と申しましょうか、天気予報にはなかった雨が降ったりもしましたが、本日はお天気も良く、境内の紅葉も見頃でお楽しみいただけたかと思います。当山は永光寺と書きまして「ようこうじ」と読みます。堂伽藍だけ見ていただきますと、お檀家が七百も八百もありそうですけど、実は七十軒足らずでございます。歴代の住職はこの堂伽藍をお守りするのに四苦八苦してまいりました。現在は立派に整っておりますが、二十年ほど前までは今では想像がつかないほど傷んでおりました。みなさんも各地の立派なお寺をお詣りされることがあるかと思います。中にはうぐいす張りの廊下なんていうのもございますが、当山の二十年前はどこを歩いてもうぐいす張りのような有様でございました。

田舎の七十軒足らずしかお檀家もないお寺がどうしてこのように立派に整っているのか、少しお話をさせていただきますと、私どもは福井の大本山永平寺を開かれた道元禅師を高祖として、のちに大本山總持寺を開かれた瑩山紹瑾（けいざんじょうきん）禅師を太祖と尊称してお慕いしております。禅宗を日本に伝えられましたのは道元禅師でございますけれども、その教えを広められましたのは、四代後の瑩山禅師なのです。

当山は、その瑩山禅師が正和元年（一三一二）に開創されたお寺であります。

瑩山禅師は福井県の旧武生市、現在は越前市となっておりますが、御誕生寺でお生まれになって、八歳の時に永平寺に上がられて約十年間ご修行されました。その後、日本各地に修行に出られて、比叡山では天台教学なども学ばれましたが、師であります徹通義介禅師が金沢の大乗寺を開かれます時に一緒に入られた。そこで、寺門興隆・民衆布教に勤められ、またそれ以降も各地に道元禅師のみ教えを広められました。徹通義介禅師の跡を継がれて大乗寺の二代目住職をされていました四十五歳の時に、この地方の豪族の娘夫婦が瑩山禅師を慕い、土地を寄進するからと申し出て、この能登の酒井へおいでいただいた。それが当山のはじまりということでございます。

みなさんが昨日泊まられた總持寺祖院は、永光寺開創から九年後の元亨元年（一三二一）の開創でございます。元々は真言律宗の教院で諸嶽観音堂と称しておりましたが、時の住職定賢権律師が僧形の観音様からの夢告を受けて瑩山禅師をお招きすると、自分が住職を勤めていたお寺ごと寄進された。瑩山禅師もそれを快くお受けになり、お寺の名も總持寺と改めて、それから五百七十余年にわたり正法教化につとめていたわけです。それが明治三十一年の大火を機に、さらなる布教伝道を願い、現在は横浜鶴見の地に移られて立派な堂塔伽藍を備えているのです。

さて、境内をご覧いただきますと樹々がうっそうとしているわけですが、実は当山が大変隆盛いたしました時には、五院二十数坊を擁す大寺院でございました。開創からしばらくしますと後醍醐天皇より「曹洞宗出世道場」の綸旨を賜りまして、四代にわたり勅願道場を勤めました。これは皇室からの依頼で祈願をしたということですが、なにを祈ったかと申しますと、五穀豊穣なんですね。やはりまずは食べ物がないと生きていかれない。また昔のことですから飢饉などもあったわけです。それから天下泰平。戦乱が各地で起こる時代でございますから、そういった事を祈願した。

また、瑩山禅師を慕うたくさんのお弟子さんがこの永光寺で修行され、この能登の地から各地へと弟子や孫弟子が布教に歩かれて、道元禅師の禅の教えが日本中に広がっていった。つまり、宗門が大きく発展した元となったのが、瑩山禅師であり、この永光寺であったということなのです。

「水魚の昵」に見る和合の心

瑩山禅師は弟子たちに遺言書をここ永光寺で遺されています。「尽未来際置文」という現在から未来にわたり守るべき教えが書かれておりまして、どんなことが書いてあるのかといいますと、「檀那を敬うこと仏のごとくすべし」。つまり檀信徒を仏様のように大切にしなさいと書かれている。これは、いくらお釈迦様の説かれたありがたい教えがあっても、檀信徒のみなさんの信仰心がなくなり力が無くなった時、それは仏の教えが断絶するときである。檀信徒を大切にすれば未来永劫お釈迦様の教えが続くであろうということであります。

いまも私たちがこういう衣を着ていられるのも、日々の生活ができるのも、何よりこの堂伽藍をお守りできるのもひとえに檀信徒のみなさんの力があってはじめて成り立つ。お寺が維持管理できるわけでございます。魚がいくら大きいからと言っても水が無いと生きられない。それを「水魚の昵」水と魚のように親しい関係を申しますが、このような関係でお寺と檀信徒のみなさんがいられるようにせよということなんですね。

お寺だけに限らず、普段の皆さんの生活の中でも同じことです。良いときは、勢いのあるときは人々が集まってきます。しかしちょっとおかしくなりますと、近しいと思っていた人でも一人去り、二人去りします。そういうときにこそ力を合わせなさいということなのです。

当山の伝燈院（開山堂）という建物の奥に「五老峯」という塚がございます。これは瑩山禅師がお造りになったものですが、五人の祖師方の遺品が埋納されています。

日本に禅宗を伝えられた道元禅師は、中国に渡られご修行されたわけですが、天童如浄禅師という方に出会われてお悟りを得た。如浄禅師は道元禅師の師にあたる方であります。その如浄禅師の語録、道元禅師のご霊骨、永平寺二代目住職の孤雲懐奘禅師の血書。これは自らの血でしたためたお経であります。そして永平寺三代目住職で瑩山禅師の師、徹通義介禅師の嗣書、これはお坊さんの系図です。それから瑩山禅師は自ら大乗経五巻を写経しまして、それら全てを納めた塚を「五老峯」と称しています。

瑩山禅師はこの「五老峯」を法孫、檀信徒、一味同心に敬って後の世に伝えていくように書き残され

ています。ですから、歴代の永光寺の住職は、堂伽藍をお守りするのも確かに大切なのですが、「五老峯」をお守りすることを勤めとしてきたのでございます。

当山は開山して七百年経ちますが、その間、二度の戦火に遭っております。最初は応仁の乱（一四六七～一四七七年）ですから五百六十年ほど前。二度目は天正七年（一五七九）、戦国時代です。今から四百三十年ほど前のことで全山焼失しております。現在の堂伽藍は江戸時代の中頃、二百年ほど前の建物です。開創以来、多くの修行僧が日々研鑽を積み、昭和十八年まで修行道場でございました。ですが、ご承知のように太平洋戦争の戦況が厳しくなりますと、修行僧にも召集令状が来て、みな戦地に出征いたしました。そうして修行道場の看板を降ろし、戦後はどこもそうであったように大変な時代を過ごしたわけでございます。先ほど、二十年前まではどこも傷みが激しかったと申しましたが、宗門にとりましてはとても大切なお寺であります。その永光寺が荒れているのは申し訳ないということで、全国のご寺院のご寄進により、足掛け十年を費やして整備をさせていただいた。そうしてこのような寺観が整ったということなのです。

観音様の功徳と信仰の力

最後に瑩山禅師のお母様のことを少しお話させていただきます。このお母様、十七、八の時に実の母親と生き別れになってしまわれました。瑩山禅師にとっておばあ様にあたる方ですが、どうも道元禅師の徳を慕って京へ修行に行っていたらしいのです。しかし行き先も告げずにある日突然いなくなり、数年間も行方知らずになっていた。それが風の便りに京へいるらしいことを知り、探しに行かれるわけです。

それでもなかなか出会えるものではありません。瑩山禅師のお母様は元々観音信仰の篤い方で、清水の観音様に願掛けをしに向かわれた。その清水寺に向かう坂道で、小さい小さい観音様の頭部を拾われた。これは観音様のご縁だということで「もし死ぬまでにお母様と会うことができたならば、修復をして一生大事にお守りをします」とお誓いをたてた。観音様のお力があるならば会わせて欲しいと願われたわけです。観音様の願掛けはご存知のように七日間つとめるわけですが、その満願の日の朝に行方知れずのお母様の居場所がわかったそうでございます。観音様のご縁で再会を果たす事ができた。これは観

音様のお力をいただいたと、お誓いの通り観音様の頭部を仏師のところに持っていき修復していただいた。そしてご自身の念持仏として大切にされた。

その後、ご結婚されたわけですが、今度はなかなか子宝に恵まれない。なんとか子宝を授かりたい一心で観音経を毎日読誦して、三百三十三拝をしてお詣りをしたと言われております。そうして後の瑩山禅師を身ごもったわけですが、「生まれたら人様の役に立つ立派な導師となって欲しい」と願われたそうでございます。

瑩山禅師は後に、ご自身が観音菩薩の御子であるとされ、修行で苦しいときなどは「念彼観音力（ねんぴかんのんりき）」とお唱えになってやがて立派な方丈様になられた。お母様が亡くなられた後は、観音様をご自身の念持仏とされたそうで、それがこちらの十一面観音様でございます。頭部は平安時代、お身体は修復された鎌倉時代のもの。そしてこの台座の部分には、瑩山禅師の幼髪とへその緒が納められております。観音奉賛会の皆様もどうか信仰のお心を大切に、日々「念彼観音力」と元気にお唱えいただくことができれば、それこそが観音様の功徳かと思うわけでございます。本日はご参拝ありがとうございました。　合掌

坐禅研修会感想文紹介

過日、日本能率協会の主催で坐禅研修会が修行され、静岡県良泉寺住職の大塚達雄老師が指導を担当されました。以下に感想文を抜粋して紹介します。

＊今、当たり前に得ている物、得られているものの有り難みを感じ、その物の故縁にまで思いを巡らせる事によって、自分が生かされているという思いを強くすることができた。この生かされている命の続く限り、自分が世の中、社会の為になすべきこと、成さなければならない事が何なのかを考え実践して行きたい。

＊現実主義者であり、人の気持ちに対しあまり興味を持たず対応してしまう自分にも気がつくことができました。森羅万象、全てのものには繋がりがあることを意識し、相手への配慮や感謝なども交えながら、今後の仕事に打ち込んでいきたいと思います。そのためにも、まず自分にできる事、自分がすべき事をしっかり見定め、他責にせず、自信を持って事にあたってゆきたいと思います。

＊日常は考えをまとめたり、整理をするということに囚われすぎて時間を無駄にしているのではと感じた。周りから悪く思われないとか、格好良くしたいとか考える。そんな雑念が頭脳を刺激して素直に考えることを邪魔するのだろうか。素直に自分の考えを感じる。その考えに沿って素直に生きる。それと周りの全てに感謝する。これをもって「生かされる」ということなのかと感じた。

＊お話のなかでも、全てのものや人に感謝する心も改めて大事に思うと共に最近は自分がものを作る立場にあることから、その基となる材料への感謝の気持ちが薄らいでいることに気づき反省した。

＊日本の先人たちの生き方を改めて認識した。私たちはその生き方を受け継いで、次の代に伝えていかなければならない。「生かされている私」、この精神が世界から見て日本のものづくりの原点であり、日本の強みであり、日本が無くしてはならないものであると本日の経験から強く認識した。

＊日頃の忙しさに追われた生活の中、深く考えたり、自己を振り返ることもほとんどしないままでしたが、本日の坐禅体験や講話を伺っている際に、家に帰ってからでも、一人で坐り、少しの時間でも考えることや振り返ることを行なってみようと思いました。また、その中で親に感謝する気持ちを始め、子に接する気持ち、会社での振る舞いを考え、振り返る時間に発展できればと思いました。

＊自分の成り立ちを考える上でも両親への感謝を忘れず、これからの社会人生に生かしていきたいと考えます。会社に戻ってもグループや家族の一員になりますので、みんなが幸せで喜べる目標に向かって努力していきたいと思います。

＊坐禅体験では作法の意味を説いていただき、少しではありますが、自分を取り巻く様々な物や環境に感謝し、日々の生活を送ることの大切さを学びました。己を知り、そして周りの人々、物事に感謝し、その有り難みを感じながら今後の人生を充実したものにしていきたいと思います。

＊常日頃の所作が自分自身や周囲の人に与える影響

を改めて感じた。一つ一つの所作を意識することで良い精神状態を維持できると思う。毎日仕事や家庭で忙しい中で、自分中心で物事を考えがちであったが、生かされているということを再認識した。周囲の人や物に感謝しながら生活していきたい。

＊本日の体験によって、自分のこれまでの作法というものが誤っていたことを知った。これを機に正しい振る舞いができるように注意したい。

＊日頃会社生活をしていると、目標・目的があり、それを達成するために、ほとんど全てと言っていいくらい、それには理由があるように思います。しかし今回の体験を通じて、効率や利便性を求めるだけでなく、心で感じる感謝や尊ぶ気持ちを体で示すことの大切さに気づかされました。

＊社会人になり、それなりに勉強を続け、成長し、仕事もできるようになったつもりでいましたが、ほんの三十分の正座をした自分は学生の頃と変わらないと感じていました。自分という本質はもしかすると一生変わる事なんてないのかもしれません。そうであれば、この先どのように生きるのがよいのか、どのように生きたいのか、本当の変わらない自分を大切にしながら本当の自分と対話しながら生きていきたい。「我の使命を達成するために生かされている」我の使命は何か？　人間としての使命は何か？　最近の自分の悩みに通じる学びをさせてもらいました。

＊礼儀作法を学ぶ機会が今まで無かったため、立ち居振る舞いを知る事ができて良かった。自分がいかに礼儀について甘く考えていたかを知ることができました。

＊生かされている私に関して、日頃の生活においては意識する事がまるで無かったため、改めて親兄弟や肉親を大事にする気持ちや、人間として決して忘れてはならない大切な想いを再認識できたような気がします。坐禅の経験についてもまったくの初体験ではありましたが、心の中で無駄なことを考えずに、決められた姿勢を維持する事から生み出される新たな考えや物事の新しい見方など、今回は時間のない中での経験であったため、今度はしっかりと体験してみたいです。

◎秋彼岸中日法要　修証義奉読会

九月二十三日（水・秋分の日）
十一時　受け付け始め
十二時　講談　日向ひまわり師
十三時　修証義奉読

◎秋の観音詣りのお知らせ

厄よけの観音様として信仰を集める飯高観音萬勝寺の参拝をメインに岐阜県の霊場を巡拝します。宿は皇室御用達、登録有形文化財に指定される老舗名旅館・下呂温泉「湯之島館」を予定。

日程　十一月十日（火）～十一日（水）
行程　成願寺朝七時集合・出発―中央道―飯高山萬勝禅寺飯高観音（参拝・拝観・お説教）―下呂温泉「湯之島館」泊―龍澤山禅昌寺（萬歳洞庭園散策・雪舟八方睨み大達磨見学）―中山道妻籠宿（重要伝統的建造物群保存地区）散策―成願寺夕六時帰着予定
会費　四万円

＊遠方より参加の方は成願寺前泊を受付。貸布団代二千五百円ご負担ください。部屋代・朝食代不要。

◎お寺ヨガ　八月九月限定「朝の、瞑想とヨガ」開催中

全米ヨガアライアンス認定指導者ゼラによる八月九月限定の朝のヨガ教室です。男女年齢不問。初心者でも気軽にご参加いただけます。お申し込み、お問い合わせは「中野坂上お寺YOGA」のブログ「http://ameblo.jp/nakanoterayoga/」を参照されるか、メール「nakanoterayoga@gmail.com」まで。

【場所】成願寺南書院一階
【日程】毎週金曜日　朝七時～八時
【金額】千五百円／回

◎行事予定

成道会一泊坐禅会　十二月五日（土）夕～翌朝
納めの観音（年末の会）　十二月十八日（金）
午後二時よりご祈禱・説教・会食

◎学術研究振興基金「小笹会」へのお問い合わせ

【小笹会趣旨】小笹会は佛教ならびにアジア、アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的を持つ。応募要項、願書をご希望の方は寺務所（ＦＡＸ〇三－三三七二－二七七四）まで。

【申込受付】随時　　【審査発表】約五十日後